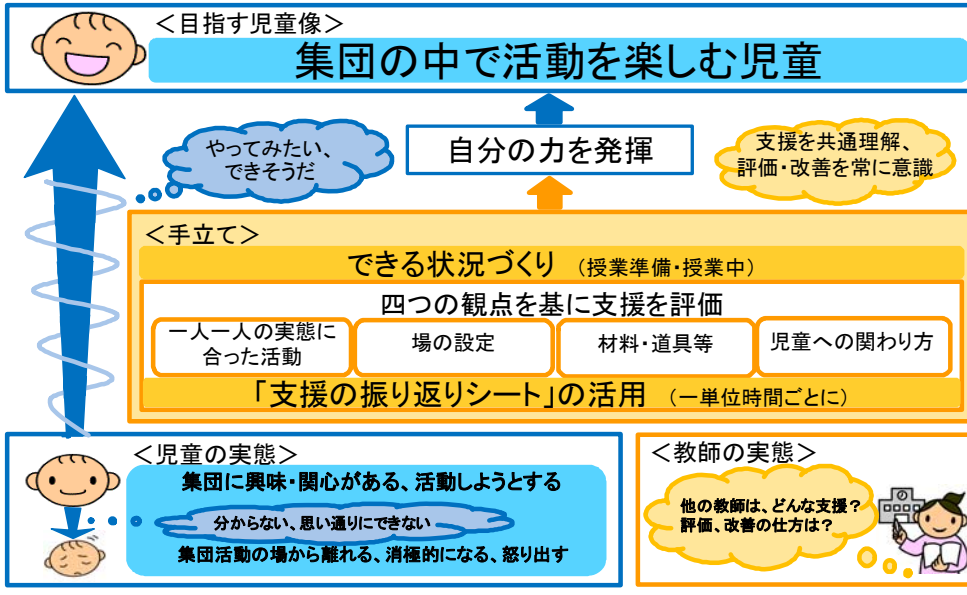


知的障害特別支援学校における集団の中で活動を楽しむ児童の育成 —生活単元学習での「支援の振り返りシート」を活用したできる状況づくりを通して—

研究の概要

特別研修員 特別支援教育 岩崎千佳（特別支援学校教諭）



		児童A	児童B
個別の目標			
第1時	支援の評価 (◎・○・△)	活動	場 道具等 関わり
	考察		
次時の支援			
第2時	支援の評価 (◎・○・△)	活動	場 道具等 関わり
	考察		
次時の支援			
個別の目標の評価			

○一単位時間ごとに、複数の教師で、支援の評価・改善、共通理解を図る
○一覧表の様式で、一単元一枚
○児童一人当たり5分で振り返り

授業実践

<手立て> 「支援の振り返りシート」を活用したできる状況づくり				
四つの観点	一人一人の実態に合った活動	場の設定	材料・道具等	児童への関わり方
【実践1】 バスのみちをいっぱいしよう	模造紙に描いた道に、空き箱で作ったバスを走らせる活動を用意 	教室のほぼ全面に敷いた模造紙上に、製作の場を設定 	一般的なはさみでは、上手く切れなかったため、軽い力で切れるはさみを用意 	前時は、活動中に助言をしたため、児童が怒り出したので、本時は、活動前に困ったら、助けを求めるように助言
【実践2】 おまつりをしよう	屋台ごっこや神輿パレードを用意、それぞれの活動に選択肢を用意 	ボウリングの傾斜台で、客と店員の役割を明確化 	前時は、教師が手渡したさおを友達に渡せたので、本時は、顔写真付き釣りざおフォルダーを用意 	「あの子と神輿に乗りたい」という気持ちを、指さして伝えたので、仲介して相手児童に伝えた

成果

- ◇ 「支援の振り返りシート」の四つの観点を基に、複数の教師で支援を評価したことにより、より適切な支援でできる状況をつくることのできた。児童は、自分の力を発揮できるようになり、集団活動の場で進んで活動したり、友達と関わるようになったりした。
- ◇ 「支援の振り返りシート」の活用で、支援の共通理解が容易になったり、支援を評価し改善してできる状況をつくらうとする意識が高まったりした。児童は、集団の中で、笑顔で活動を続けることが増えた。

課題

- ◆ ある児童に対するできる状況づくりが、他の児童にとって戸惑う原因になる場合があった。それぞれのできる状況づくりの調整が課題である。
- ◆ 単元により四つの観点を、軽重付けて評価すると、できる状況を効果的につくることができると考える。